

コラム③ 将来、一人暮らしをしたいという夢がある

～令和5年度 東京都自立支援協議会セミナーパネリスト（障害当事者）
グループホーム畑中たましろ荘 中尾良彦さんの講演から～

コラム②に続き、令和5年12月11日に開催した東京都自立支援協議会セミナーでの障害当事者の話をご紹介します。セミナー当日には、会場入口に、中尾良彦さんが半年あまりかけて作成した、自身が暮らしているグループホームの模型が展示され、参加者が足を止めて見入る様子が見られました。

ろう重複者（重複する障害のある聴覚障害者）のためのグループホーム畑中たましろ荘ができてから、なかまの4人と地域で暮らしています。

将来、一人暮らしをしたいという夢があるので、お金を稼ぐため、青梅市の福祉センターで主に清掃の作業をしています。

令和3年12月に採用が決まって、仕事が始まりました。仕事がある日の

1日の流れとしては、朝5時に目を覚まして、支度をして出発します。7時から清掃の仕事です。例えば、2階のトイレが一番大変です。廊下の清掃もして、休憩を取って、飲み物を飲んで、ホッとした後、また清掃作業を始めます。3階もきれいに拭かなければいけません。全部終わる時間が12時半頃です。全て仕事が終わって着替えをして、またホームに帰るという形です。ホームに帰りましたら、13時半ぐらいになります。それからお昼を食べます。

趣味は、絵を描いたり、作品を作ることが好きです。手話が分からない人たちには、絵を描いて、それでコミュニケーションを図れることもあるので、絵を描いたカードを作っています。作品は、何カ月もかけて作ります。紙で作った畑中たましろ荘の模型は、屋根を持ち上げると、家の中まで細かく、トイレ等も作っているのが分かります。

将来、一人暮らしをしても大丈夫なように、みんなの夕食を作っています。焼きそばとカレーを作るのが得意です。みんなが美味しいと言ってくれるのがとても嬉しいです。

私は耳が聞こえません。でも、聴覚障害者だから駄目ではなくて、みんな同じ人間なので、これからも人間らしく生きていきたいです。



東京都自立支援協議会セミナーで展示された
中尾良彦さんの作品「畑中たましろ荘」